

## 当科におけるC型慢性肝炎に対する瀉血療法

平野 玄竜<sup>1)</sup> 田中 崇<sup>1)</sup> 猪俣慎二郎<sup>1)</sup>  
花野 貴幸<sup>1)</sup> 上田 秀一<sup>1)</sup> 松本 照雄<sup>1)</sup>  
西澤 新也<sup>1)</sup> 阿南 章<sup>1)</sup> 竹山 康章<sup>1)</sup>  
横山 昌典<sup>1)</sup> 入江 真<sup>1)</sup> 岩田 郁<sup>1)</sup>  
釈迦堂 敏<sup>1)</sup> 早田 哲郎<sup>1)</sup> 熊川みどり<sup>2)</sup>  
丹生 恵子<sup>2)</sup> 向坂彰太郎<sup>1)</sup>

1) 福岡大学医学部消化器内科

2) 福岡大学病院輸血部

要旨：C型慢性肝炎5症例に対して瀉血療法を行った。全症例で血清ALT値の著明な低下を認め、合併症は特に認めなかった。長期継続例では、48ヶ月間血清ALT値の正常化を維持していた。瀉血療法は、肝線維化の進展の抑制、発癌抑制さらには、インターフェロン治療効果の増強についても期待されており、C型慢性肝炎に対する安全かつ有効な治療法の一つと考えられた。

キーワード：C型慢性肝炎，瀉血療法，肝線維化抑制，発癌抑制，インターフェロン